

TEAMさくらまち

自ら学び 自ら考え 自ら行う

令和7年5月28日

長崎市立桜町小学校 校長 片岡 勝志



次のステージへ ～運動会の応援 ありがとうございました～

「心をひとつに 完全燃焼」

このスローガンには、桜町小の子供たちの運動会にかける気持ちが込められていました。

最後まで全力で走り抜く姿。ありったけの声で叫ぶ応援の姿。満面の笑みを浮かべて力いっぱい踊る姿。友達と声を掛け合い、協力して動く姿。子供たちは、心を一つに団結し、自分もつ力を随所に発揮してくれました。見る人々にも元気と感動を与え、私にとりましても、改めて子供たちのすばらしさを感じた一日となりました。

保護者の皆様、地域の皆様からは、最後まで、子供たちを温かいまなざしで見守っていただき、ご声援をいただきました。子供たちが躍動することができたのは、そんな皆様からもらった後押しのおかげでもあります。また、SSTの皆様には、テントの設営や撤去、来賓の受付や接待など、会の円滑な運営に向け、たくさんのお力添えをいただきました。本当にありがとうございました。

大人も子供もみんなで「TEAM桜町」になった運動会。

目標に向かって努力すること、友達と力を合わせることを、集団行動への意識の高まり。

この運動会の取組を通じて、子供たちは貴重なことを学びました。6年生は学校のリーダーとして大きく成長し、他の学年の子供たちも様々な成長ぶりを見せてくれました。

どの子供も、よくなろうとするエネルギーをもっています。子供たちには、この運動会の経験や学んだことを、ぜひ次のステージに活かしてほしいと思います。

運動会の振り返り（6年生）を紹介します。

最初に表現がフラッグと決まった時、「やった！フラッグだ！」と喜びました。でもいざ練習となると、フラッグは大きくて重いし、「バサッ」と大きい音はならないし、全然そろわないし、そしてすぐからまるし、何より振付が難しいし、これまでの6年生はすごいなと痛感しました。それからというもの、「そこは横と合わせて」「そこは左から」と何度も先生から注意され、だんだん憂鬱になってきました。しかし、練習を重ねるにつれ、先生は私達のフラッグを成功させたいのだと気づきました。ついに運動会の日。フラッグの番がやってきました。心臓が口から飛び出るくらい緊張していましたが、演技が始まるとだんだんと楽しくなってきた心も体も自然と動きました。最初は苦手だったフラッグが、大好きと思えるようになりました。

私が運動会で頑張ったことは、フラッグです。練習を始める前は、簡単そうだなと思っていたけれど、フラッグは意外と重くて、腕を伸ばすことが大変でした。腕を伸ばすことができなくなったり、フラッグが絡まったりしてしまいうこともありました。けれど一人でもずれたら、動きをそろえることができなくなってしまうので、腕をのばして、表情・目線に気をつけて練習しました。そして本番では、今まで練習してきたことや、ポイントを意識して、動きをそろえることを頑張りました。家に帰って、家族から「そろっていて、きれいだったよ。」と言われ、うれしかったです。今回の運動会で、「一つの目標に向けて、努力をすることの大切さ」を学びました。これからも学習や桜っ子くんちなどで、目標に向かって努力していきたいです。

私は、「先を見て考えて動く力」、「努力の大切さ」を学び、成長しました。係では出発係として素早い移動が求められました。そこで、スケジュールに書き込んだ内容を頭に入れて、当日もすき間時間を上手く活用して自分のことをしながらも係としての役目を果たしました。フラッグでは、より完成度の高い演技を目指そうと意気込んでいましたが、動きを覚える所からつかかかっていました。そこで、動画を使って自分と全体を比べてみたり、イメージで振ったりすることを意識し、成功させることができました。「先を見て考えて動く力」、「努力の大切さ」この2つは、普段の生活の中で、例えばテスト勉強や次の単元の予習など、いずれ後にやらなければいけないことを先に努力して頑張ることで後から楽になると考えられると思います。今後の生活でも努力を怠らず、頑張ろうと思いました。

